

平成23年度第7回宇都宮市河内自治会議録

- 1 日 時 平成24年2月13日（月） 午後2時30分～午後4時50分
- 2 場 所 河内地域自治センター 第1・2会議室
- 3 出席者
- 【委員】 杉原弘修委員（会長）、石渡重道委員、伊藤昭博委員、太田達彦委員、加藤幸雄委員、君島京子委員、駒田静雄委員、櫻井基一郎委員、渋井トミ子委員、五月女京子委員、田村正男委員、中山光幸委員、真壁諦委員、松谷宣子委員、吉田恵美子委員
15名
- 【事務局】 地域自治制度担当副参事、河内地域自治センター所長、地域経営課長、
8名 ほか5名
- 4 会議の公開・非公開 公開
- 5 傍聴者数 なし
- 6 会議経過

(1) 開会

本日の会議の出席者数は15名、磯川委員、川上委員、清水委員、高久委員、中西委員が欠席。委員数の過半数に達しているため、会議が成立することを事務局から報告。

(2) 協議事項

①「地域のまちづくりに関する施策の提案」に係るテーマの選定について

発言者	発言内容
会 長	<p>それでは、協議事項に移る。</p> <p>「地域のまちづくりに関する施策の提案」については、前回の会議で、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度までに取り組む複数のテーマを、年度毎に分割し、該当年度の個別テーマを順次協議していくこと。 ・協議の方法としては、グループ協議を基本として進めていくこと。 <p>となった。本日から、そのように進めていくので、よろしく願います。</p> <p>「地域のまちづくりに関する施策の提案」の基本的な考え方については、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①多くの地域住民の意見を集約した提案としていくこと。 ②自分たち（地域）が「何ができるか」を常に意識して、提案をしていくこと。 ③地域の10年後の「あるべき姿」を明確にしながら提案していくこと。 <p>であり、また、提案内容は、地域が自ら取り組む施策を基本に提案していきたい。これらのことを考えながら、提案への協議を進めていきたい。</p> <p>協議事項『(1)「地域のまちづくりに関する施策の提案」に係るテーマの選定について』を議題とし、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>・「地域のまちづくりに関する施策の提案」に係るテーマ選定集計表の説明（資料1）</p> <p>分野別で見ると「健康・福祉・安心」「教育・学習・文化」「産業・経済」、宇都宮市の取り組みの施策としては「生涯学習の推進」「魅力ある観光と交流の創出」「円滑で利便性の高い交通体系の確立」などに多くの委員の方が関心を持たれていることがわかる。</p>

	<p>・「地域のまちづくりに関する施策の提案」に係るテーマ選定の「その他」の記載事項一覧表の説明（資料2）</p> <p>多方面で活躍されている委員の方々から多岐にわたり様々な意見をいただくことができた。</p> <p>・本日の協議の進め方についての説明（資料3）</p>
会 長	事務局から、テーマについてのアンケートの集計結果と本日の協議の進め方について説明があったが、何か不明な点はあるか。
委 員	協議の進め方については理解できたが、配布資料の資料A（各グループでテーマを4つに絞ったものを記載する用紙）の書き方（何を記載したらよいのか）がわからないので、もう一度説明願いたい。
事務局	グループで付箋等を使って意見を出した後、まとめ、絞っていただくとその分野ごとにテーマが見えてくる。例えば、「教育・文化」や「産業」、「福祉」という形になる。それらの中からグループで4つを挙げ、資料Aに記載して、提出していただきたい。
委 員	テーマ選定メモ用紙の内容と連動してくるというわけか。
事務局	そのように考えている。
委 員	了承した。
会 長	発表用の模造紙が足りなくなった場合は、余分があるので申し出て欲しい。各グループにはサポート役として事務局職員が入り、私も各グループを回るの、何かわからない点などあれば些細なことでも構わないので聞いて欲しい。何か不明な点はあるか。
全委員	（意見なし。）
会 長	それではグループ協議をお願いします。
グループ協議を実施	
会 長	それでは、グループの発表準備ができたようなので、Aグループから順番に発表していただきたい。
委 員	<p>Aグループの発表をする。</p> <p>私達のグループでは1番目に高齢者福祉、2番目に環境と観光、3番目に教育・文化、4番目に安心・安全という4つのテーマを挙げた。その他に市民が主役のまちづくりの推進という意見が出たが、これはまちづくりの基本ということでどの分野にも属さないこととした。</p> <p>1番目に、高齢者福祉について説明する。主な意見では、高齢者の生活の充実、足の確保、人と人とのつながりの大切さといったものが出た。</p> <p>私達自身も高齢化は他人事ではなく、自分自身の気持ちに置き換えて考えてみた。もし介護が必要になったとき、若い世代に迷惑を掛けたくないという思いもあり、高齢者施設等の充実、また、車の運転が困難になった場合には、公共交通や地域内交通の必要性も出てくる。</p> <p>なるべく病院へ行かないで済むように、心と体の健康づくりの必要性や、近所付き合いも大切だという意見も出た。東日本大震災で、皆が絆というものを再確認したと思う。独居老人の要援護支援なども含め、人と人との関わりあい、ふれあいを大切にしていきたい。</p>

	<p>2番目に、環境と観光について説明する。水と緑の河内地域ということで、河内地域には素晴らしい場所や文化財等が沢山ある。それらを盛り込んだまちづくりコースの整備を進めていくとよいのではないかとの意見が出た。現在ある直売所の拡充なども地域の活性化につながると思うし、この河内地域に沢山の人が出向いてもらえるようなPRをしていけたら良い。</p> <p>3番目に、教育・文化について説明する。これは、当然ながら健全な青少年の育成ということだが、異世代交流が希薄になっている現在、様々な交流の場を提供していく動きが必要だと思っている。今、青少年育成協議会では、これを目的とした「わくわくフェスティバル」という事業を行っているが、生涯学習という面でも、子供と大人が関わりを持つ場が、今後もっと必要になってくるのではないか。</p> <p>最後に、4番目の安心・安全について説明する。防犯防災対策の具体化、保健医療サービスの質の向上、快適な住環境の創出など、日常生活の安心安全の向上という思いが詰まった意見が出た。</p> <p>なお、今回のグループ協議は、自由な意見が言い合えて大変良かった。グループメンバーの相性も良かった。これからもこのような形で継続していきたい。</p>
会 長	それでは、次にBグループ、お願いします。
委 員	<p>Bグループの発表をする。</p> <p>私達のグループでは1番目に教育・文化・ふれあいを1つにくくり、副題「河内の深い絆」という形とし、2番目に住み良い自然環境、3番目に住みよい都市環境、4番目に生き生き河内の産業ということで4つにまとめた。</p> <p>1番目に、河内の深い絆について説明する。</p> <p>これは、教育・文化・ふれあいというものは、それぞれ共通しているところがあると考え、ひとつにまとめ、深い絆を構築しようとするものである。教育に関して言えば、現在進められている小中一貫校の推進や、生涯学習事業、少年層から熟年層まで皆で一緒に学ぶ機会づくりが重要であると考え。文化に関して言えば、河内には白沢宿のほか、城跡や歴史等の文化財が多数ある。単に歴史の勉強をするのではなく、お年寄りから歴史の話を聞く機会や、子供が歴史に直接触れる機会を設けることが必要であり、それは、教育にもふれあいにもつながっていくものと考え。ふれあいや絆に関して言えば、合併後、宇都宮市の体制になったことにより、補助金等の関係で旧河内町の時のように実施できなくなった事業があるが、補助金が無いからできない、とあきらめるのではなく、無いなりに工夫してやっていこうという、我々のパワーが必要なのではないかと考えた。</p> <p>それには現在希薄とされている町内会や自治会、近所のふれあいを密にし、皆が一緒になって地域の行事を企画し、参加していく姿勢が大切なのではないか。</p> <p>2番目に、住み良い自然環境について説明する。</p> <p>河内地域は、畑作の台地、鬼怒川沿いの水田、住宅・都市部が明確に分かれていて、宇都宮市の中でも、とても住みやすい所だと感じている。また、公園や河川敷、里山など情操教育にはうってつけの場所が沢山あり、文化財や白沢宿周辺の地域も含めて、大切にしていきたいと考えている。</p> <p>3番目に、住み良い都市環境について説明する。</p>

	<p>現在、岡本駅西地区で区画整理が行われているが、それ以外の地域でも林が伐採され、宅地となり急ピッチで家が増えている。そのような都市計画以外の地域での、将来的な住環境や住空間の創造・計画というものが必要になってくるのではないかと考えた。都市の中に子供が遊べるような場所を作ったり、医療や商業に長けている地区があればその利便性をしっかり見据えた、地区の将来的な計画を立てたりすることも大切なのではないか。</p> <p>最後に、4番目の生き生き河内の産業について説明する。</p> <p>4番目になってしまったが、この産業というものはお金を生むことを含み、他の項目には無い特色である。ゆえに、産業の発達がなければ我々の生活はおろか、まちづくりの事業も成り立たないというわけである。現在、後継者不足などの話題も耳にするが、この地域で生まれ育った人たちがこの地域の商工業の後継者として、生き生きと仕事ができるような支援をしていく必要があるのではないか。</p>
会 長	<p>それでは、次にCグループ、お願いします。</p>
委 員	<p>Cグループの発表をする。</p> <p>私達のグループでは、委員からの意見の多いものほど重みがあると解釈し、順位付けをした。まず1番目に教育・学習・文化の向上、2番目に高齢者・障がい者の福祉対策、3番目に地域産業の活性化、4番目に地域の安全対策とした。</p> <p>1番目に、教育・学習・文化の向上について説明する。</p> <p>昨年の東日本大震災や原発の関係で避難されている方々のうち、青少年の方が、「ふるさとに帰りたい」と言っていた。忘れがたいふるさとの良さが植え付けられており、「帰りたい」と思わせる基本になっているのではないかと強く感じた。</p> <p>河内地域も、様々な歴史、自然、文化が整っており、それらを活用した学校での授業や食育、体験学習などを通し、ふるさとの味や感覚に触れることによって生み出される思い出が「帰りたいふるさと」につながってくるのではないか。</p> <p>また、平成5年から10年まで、旧河内町の小学6年生を対象に「こんなまちがいいな」というアンケートをとり、町長へ提出していたという経緯がある。その中には、遊べる場所が欲しい、川が欲しい、木登りがやりたい、など子供たちの要望が沢山つまっていた。その結果も含めて、生涯学習の向上も視野に入れていくべきだ。河内の特産である農業を活かし、農家と給食をリンクさせ、食育としてもっと学校へ取り入れても良いのではないかと特に訴えたい。</p> <p>歴史や文化に関しては、歴史資料館を創設したら良いのではないかという意見も出た。まだ埋没している歴史的資産が沢山あるので、もっと公にPRする必要性を感じる。</p> <p>2番目に、高齢者・障がい者の福祉対策について説明する。</p> <p>このテーマについては、我々自身のことに置き換えて考えてみた。いずれ高齢化し、車が乗れなくなってしまった時のことを考えると、地域内交通の必要性や、利便性の高い交通体系の構築などが重要なポイントになるのではないかと意見が出た。また、障がい者に対しても、バリアフリーを含む思いやりのある諸々の施策、ノーマライゼーションの取り組みなど、今後の課題として挙げた。</p> <p>3番目に地域産業の活性化について説明する。</p> <p>各グループでも取り上げていた通り、河内は歴史も自然もあり、水や緑も豊か</p>

	<p>で、特産品も数多くある。それらを活かしながら地域産業を活性化することに取り組んでいったらよいのではないかと考えた。</p> <p>現在、国道4号線付近にある桜つつみは、とてもロケーションがよく、春の桜と併せて白沢宿や里山など、あの地域を広域的な観光ゾーンとして構築することで、市民の憩いの場としても多くの人が訪ねてきてくれるのではないかと考えた。</p> <p>また、現在特に少子高齢化の著しい農業にあたっては、将来どうなるか非常に危惧される問題である。地産地消の推進も含め、直売施設と流通体系の見直し・再構築も視野に入れていくべきだ。</p> <p>4番目に、地域の安全対策について説明する。</p> <p>現在、様々なところで大地震への対策が講じられている。昨年の東日本大震災でも、栃木県は震源地から600～700kmほど離れていたにもかかわらず、震度6強の揺れが発生、多くの被害が出た。この先、関東周辺や東海地方でも大地震が起きるのではないかとこの予想も出ており、その場合でも、栃木県は数百km離れているとはいえ、十分に危惧しなければならない事態になっている。そのこともふまえ、大震災に備えた、ハザードマップ等を作成しながら、市民が逃げられる場所、安心して避難できるような施設を今のうちから整備していく必要があるのではないかと考えた。</p> <p>そして、地域の安全対策には水と緑を守るという環境の保全も含まれる。例えば、中性洗剤を使わない取り組みや、廃油から石鹸を作る体験など、先程話した食育と同じように、教育の中でも身近にできるエコ活動として導入しても良いのではないかと考えた。</p> <p>以上4つのテーマの結果をまとめると、それぞれが全て関連しているということがわかる。これから提案書を作っていくにあたっては、1つ1つ個別のテーマに沿って具体的な施策を構築・提案すれば良いのではなくて、全てが関連しあった、新たな河内のまちづくりというものにしていかなくてはいけないのではないかと考えた。</p> <p>そこで私から1つ提案がある。</p> <p>この会議には、多方面に造詣の深い方がいるが、それぞれの事業の担当の方、例えば、農業と学校給食を連携させる場合には学校の給食担当の方、防犯や交通ルールに関しては警察当局の方などのオブザーバーを呼んで、指導や意見をいただくような機会があると良い。我々の勉強のためにもいい経験になると思うのだが、いかがか。</p>
会 長	3つのグループから様々なテーマの案が出された。どのグループも、よく議論されていて素晴らしい発表だった。先程の発表について何か質問や意見はあるか。
委 員	<p>Aグループに質問する。</p> <p>高齢者福祉が11票、環境と観光が11票で同数だが、今回Aグループはメンバーが全員女性で、女性は介護などに大きな役割を果たしているという観点からも高齢者福祉の票がもっと多数になるかと予想していた。同数の2つのテーマのうち、なぜ高齢者福祉を1番目に挙げたのか、理由を教えてください。</p>
委 員	高齢者福祉は14票、環境と観光が11票であり、票数が多いということと、やはり、自分達の身近に感じられる話題で、意見・提案が多かったからである。

委員	了承した。
会長	他に何か質問や意見はあるか。
全委員	(意見なし。)
会長	いずれのグループもとても丁寧に説明していただき、大変わかりやすかった。 3グループから合計12のテーマが出された。これから、皆様と意見交換を行い、これらのテーマを4つ程度に絞っていきたいが、中には類似した内容のものもあるように見受けられる。各グループで重複・類似のテーマについては優先的に決めて行きたい。それについて何か質問や意見はあるか。
全委員	(意見なし。)
会長	これまでの議論を踏まえ、皆様から出た意見を基に私と副会長で協議し、それを事務局にまとめてもらい、文言等を整理したい。次回会議には、27年度までに提案する個別テーマ(案)を提示させていただく。何か質問や意見はあるか。
全委員	(意見なし。)
会長	では、個別テーマの協議年度について、このテーマを優先的にやっていきたいなど、何か意見はあるか。
委員	4つのテーマが決まって、1年ごとに1つのテーマについて協議をしていくとすると、最後に議論するテーマは、数年後になってしまう。事業の遅れを防止するためにも、緊急度があるようなものについては、特化して我々が検討する第1番目の提案にプラスしたらいいのではないか。
会長	4つのテーマを1つずつ議論していくと、例えば、第1テーマを1番先に取り掛かったけれど、第4テーマも関連してくるので、補足的に項目を加えたいといった意見が後から出てくることがあるかもしれない。十分に想定されることである。その件については、テーマと年度の絞込みが終了してから考えることとしてよろしいか。今後の進行に関するご意見として参考にさせていただく。 テーマと協議年度(案)のまとめ方については、私に一任願えるか。
全委員	異議なし。
会長	本日のこれまでの会議の中で、何か質問や意見はあるか。
委員	協議の方法についてだが、本来KJ法というのは、今回と同じように付箋を使って意見を沢山出し、その意見に対して個別に協議して、新しい発想があったらタイトルを作っていくという方法だったという記憶がある。今回のやり方は、一見KJ法に見えるが、原点回帰で元々のテーマに戻っただけのようで、あまり意味が無かったのではないか。残念である。 そこで、前回にも発言したが、先日各委員の皆様が提出した、テーマ選定についてのアンケートを、記載されたそのままの状態、生の声として拝見したい。 例えば、A委員がアンケートの番号で答えたとか、B委員が別のオリジナル文章を作って答えたとか、そのままの生の声を聞くことで、個人の考えや思いというものを汲み取ることができ、新しい発見ができるはずと考えている。事務局は、個人情報保護の観点からか、公表に難色を示しているようだが、個人名は伏せた状態でかまわないし、私達は、市の附属機関の委員という役割を担う。 自分の意見は、しっかりと公表する責任があると思う。事務局には、大変な作業になるかもしれないが、次回の会議までに、用意していただけるとありがたい。

	<p>よろしく願います。</p>
事務局	<p>本日お配りした資料2が、個人名を伏せた状態で各委員の意見をそのまま記載し、まとめたものである。また、確かに、KJ法については新たな発想が出た場合、追加するという協議方法だが、今回は、委員の皆様には意見を10項目程度出していただいております、あくまでも、制約をつけてこの中から選べ。という手法を取ったわけではない。もし追加の項目があれば、グループ討議の中で今回の提案の中に生かされていくと思うので、事務局としては、今の方法が最善ではないかと考えている。</p>
委員	<p>私はアンケートに、科学技術基本計画の中にある、ライフイノベーションとエコイノベーションに関する内容を、背景も説明して提案したのだが、本日配られた資料2にはその記載が抜けている。残念だ。資料の量が多くなってしまったという問題点は否めないが、この会議で討議する上で、1つの材料になれば良いと思っていた。</p> <p>それぞれのグループの討議の結果を見ると、どのグループも教育に関するテーマがかなり上位を占めている。先日、地方分権・地方自治に関する講演に参加したが、地方分権で大切なのは、住民の最先端を担う意思、勉強であり、それと同時に職員も勉強して、地方分権を担う責任があるという内容だった。それを踏まえて考えると、私達が住民を教育し、職員の方々にも勉強していただき、その結果を私達に披露していただく、そのような取り組みも大切なのではないかと考えている。</p>
委員	<p>今日取り組んだ協議の方法は、KJ法の亜流であるが、まとめ方としては時間の制約のある中で良い進み方をした。ただ、手順として、グループで決めたテーマが、箇条書き過ぎているという印象を受ける。テーマというものは、それぞれの意見内容を網羅した表札でなければいけない。それが内容の箇条書きになっているので、漠然とした印象を受ける。</p> <p>しかし、次回からはこれを基に、各委員の出された意見に含まれる内容について議論していくことによって、細分化された課題というものがクローズアップされてくる。</p> <p>今日は時間の制限の中で少々急ぎ足に出来上がったと感じている部分も、各グループで次回からももう少し細かく内容に入り込んだ議論ができれば、さらに中身の濃いものが築き上げられていくのではないかと期待している。</p>
委員	<p>私も、先程の2人の委員と同じ事を感じていた。</p> <p>私も今日、自分の思いや意見の趣旨を相手に伝えるには、かなりの説明量が必要であると感じた。自分では分かっている、相手には全く伝わっていないということもあった。しかしながら、それが現実なのではないだろうか。</p> <p>よって、自分の意見を伝える、相手の思いや考えを知るという意味では、振り返り・復習といった意味も含め、先日提出したアンケートの提示を私も希望する。</p>
会長	<p>他に何か意見はあるか。</p>
全委員	<p>(意見なし。)</p>
会長	<p>私の個人的な印象を申し上げる。</p> <p>今日委員の皆様と協議していただき、12のテーマが出たが、事前にはもっと</p>

	<p>多様なテーマが出るかな、と予想していた。しかし、今日の結果を見ると、それぞれのグループからほぼ同じようなテーマが出てきたのが現実である。そこから考えられることは、同じような内容のテーマについて議論することが限界なのではなく、そこから今後細かい議論がスタートするのであるということ、テーマは似たようなものでも、今後それぞれに議論していくことで、その中に含まれる意見や考え、要素が沢山わいてくるだろうという期待である。委員の方々の発言を聞いていても、その期待が大いに感じられた。今日はその結果が得られたことが、大変良かった。</p> <p>重要になってくるのはこれからの協議であり、先程も委員の方が発言されたように、議論をしていくうえで必要な資料・情報については可能な限り提示する。</p> <p>この会議は公開になっており、会議の内容・委員の発言共に不都合なことは無いので、必要な資料・情報があれば、直接事務局に言っていただいても、この場で申し出ていただいても結構である。誤解のないようお願いしたい。</p> <p>他に何か質問・意見はあるか。</p>
全委員	(意見なし。)

(3) その他

①今後の協議の進め方について

発言者	発言内容
会 長	<p>それでは、その他に移る。</p> <p>その他『(1) 今後の協議の進め方について』を議題とし、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域のまちづくりに関する施策の提案」に係るテーマの体系（イメージ）の説明（資料4） 次回の会議で、4つの個別テーマとテーマごとの協議年度が決定する。 なお、平成28年度には、社会状況の変化を踏まえ、第1・2期も含めた全てのテーマについて再度提案内容の確認を行っていただく予定である。 ・平成23年度後半から平成24年度の会議開催予定と会議内容について（資料5） ・提案書作成のイメージについて（資料6） ・上河内自治会議の資料（参考資料1・2） について説明。
会 長	事務局から、資料について説明があったが、何か不明な点はあるか。
委 員	上河内自治会議の提案書作成事例について（参考資料2）、未完成の部分が見受けられるが、どうしてか。
事務局	今回委員の皆様には参考資料として一部記載の抜けた資料をお渡ししているが、提案書もお渡ししているので、そちらを見てご理解いただきたい。
委 員	了承した。
会 長	上河内自治会議の平成23年2月の提案書が、手元にあることを確認できたか。細かい内容は提案書の中に記載されているので、ご覧になって参考にさせていただきたい。他に何か不明な点はあるか。
委 員	前回の会議で話題に上っていなかったが、まちづくり協議会との関わりの大切さを訴えたい。

	<p>例えば、今回の会議でも、交通関係の意見が沢山出たが、まちづくり協議会でも進めている事業がある。私達が、ゼロからの出発にならないためにも、まちづくり協議会で行っている事業内容や個々の進捗を知っておくことはとても重要なことだ。</p>
事務局	<p>まちづくり協議会に関しては、この後、事務局から説明を予定していたが、先に質問いただいたので、お答えする。</p> <p>自治会議としては今後、会長、副会長と協議のうえ、皆様からも意見を伺いながら、まちづくり協議会との連携方法を検討していく予定である。また、先程も委員の方からご意見があったように、まちづくり協議会の様々な部会からの進捗報告をお願いできたら望ましいと考えている。方法はいろいろ考えられるので、その都度、委員の皆様提案させていただきたい。</p>
会長	他に何か不明な点はあるか。
全委員	(意見なし。)
会長	<p>先程の事務局からの説明で、誤解を招くといけないので、私から少し補足する。テーマの絞込みについて、先程、私と事務局に一任させてくれとお願いしたが、一任させていただくということは、今日の皆様からの意見を無視して進めていくということとは異なるので、ご理解いただきたい。</p> <p>限られた時間の会議の中で、委員の皆様全ての意見や思いを反映していくことは大変難しく、委員の皆様の中でも、言い足りない思いや、疑問・質問等が沢山あると思う。そのような時は、私や事務局に、遠慮なく話して欲しい。次回以降の会議についても、何かいいアイデア等があれば、直接でもメールでも意見をいただけたらありがたい。私達はその意見も含め、それらを基に今後の進め方を考えていくつもりである。</p>
会長	他に何か不明な点はあるか。
全委員	(意見なし。)

②次回の開催日程について

- ・平成24年3月21日(水)午後2時からの開催を予定。

③その他

- ・文化協会から講演会のお知らせ
- ・まちづくり協議会概要の紹介

(4)閉会